

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 16 日現在

機関番号：34304

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2009～2013

課題番号：21520761

研究課題名(和文)ドイツ社会国家におけるキリスト教系民間福祉についての歴史学的検討

研究課題名(英文)Historical Research on the religious welfare associations in German Welfare State

研究代表者

中野 智世 (NAKANO, Tomoyo)

京都産業大学・経営学部・准教授

研究者番号：90454470

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円、(間接経費) 990,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、ドイツ社会国家におけるキリスト教系民間福祉の役割を歴史的に検討することにあつた。分析の結果、明らかになった点は以下のとおりである。

(1) 20世紀のドイツ社会国家において、民間福祉と国家福祉は相互補完的關係性にあつた。(2) 民間福祉は、特に障害者福祉、児童保護といった領域において大きなプレゼンスを有していた。(3) 民間福祉は、福祉人材の供給においても公的福祉を凌駕しており、福祉国家にとってこうした民間福祉との協働は不可欠であつた。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to explore the role of religious private welfare in the German welfare state, historically. The research reveals the following three points. 1) The private welfare had a mutually complementary relationship with the state welfare in Germany during the 20th century. 2) The private welfare was superior to the public welfare conducted by public sectors such as local governments, especially in the areas of welfare for the disabled and child welfare. 3) The private welfare associations provided much more welfare human resources than the public welfare. It was critical for the state to work with the private welfare cooperatively.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・西洋史

キーワード：西洋史 社会福祉 キリスト教 社会事業 福祉国家

1. 研究開始当初の背景

(1) キリスト教慈善に端を発する民間福祉事業は、従来の福祉国家研究においてはその前近代性が述べられるのみで、1990年代に至るまで、学術研究の対象とはみなされていなかった。日本においては、キリスト教系民間福祉のもつ歴史的意義はもちろん、その存在すら知られていない状況であった。

(2) 報告者は、これまで公的な福祉制度を中心とする近代ドイツ・福祉史研究をすすめてきたが、その過程で、キリスト教慈善が民間福祉として今なお大きな役割を果たしていることを知り、民間福祉の歴史的検討が現在のドイツ社会国家のみならず、西欧福祉国家全般の理解に不可欠であるとの認識に至った。

2. 研究の目的

20世紀のドイツ社会国家におけるキリスト教系民間福祉の成り立ちとその役割を、歴史学の立場から実証的に検討することを本研究の目的とした。こうした作業を通して、宗教・宗派、文化に着目したあらたな比較福祉国家史研究に道をひらくこと、さらには、西欧社会におけるキリスト教と福祉、現代社会における宗教と社会の関係をあらためて考える視座をえることがねらいであった。

3. 研究の方法

本研究では、(1)福祉国家と民間福祉の補完的関係性、(2)自治体・現場レベルの民間福祉の活動、(3)福祉の人材養成における民間福祉の役割、の3つのテーマに沿って分析を進めた。

まず初年度には、マイクロフィッシュ化された重要史料をはじめとする関連資料を購入し、分析に着手するとともに、研究史のサーベイを行った。次年度以降は、毎年現地での史料収集を行い、定期刊行物や未刊行史料を収集し、分析をすすめた。

研究成果の一部は、学会・研究会等において定期的に口頭で発表された。また、論文、著書としてまとめられ、それらは、一部を除き、研究期間内に刊行された。

4. 研究成果

上記に掲げた3つのテーマに即して成果を記述する。

(1) 福祉国家と民間福祉との補完的関係性
まず19世紀末から20世紀初頭までについては、「福祉国家を支える民間ボランティア」20世紀初頭ドイツを例として〔高田実・中野智世編著『福祉(近代ヨーロッパの探究15)』所収〕にて、両者が第一次世界大

戦を機に協力関係をとるようになったこと、1920年代には「補完性原則」にのっとり、公式な公私協働関係が築かれたことを概観した。

20世紀半ばについては、「社会国家のパートナー 戦後西ドイツにおける民間福祉」〔辻英史・川越修編著『歴史のなかの社会国家』所収〕にて、1945～1949年の占領期から1950年代にかけて社会国家と民間福祉の協働関係が再確認され、さらに強化されていった歴史的背景を分析した。

上記の分析の結果、以下の点が明らかとなった。キリスト教系民間福祉は、信仰共同体を基盤とする緊密なネットワークに支えられており、公的福祉を凌駕する圧倒的な組織力を有していた。とりわけ非常時において戦争、占領や経済危機など、民間福祉はその強固な継続性と安定性によって、機能麻痺に陥った公的制度にとってかわる存在となった。敗戦や革命など政治的激動にさらされた20世紀のドイツ社会において、民間福祉は社会的に不可欠な存在であり、ドイツ社会国家にとって民間福祉との協働は自明であったことが明らかとなった。

(2) 自治体・現場レベルの民間福祉の活動

「福祉の現場における家族 1920～1930年代ドイツにおける家族保護ワーカーの活動から」〔『比較家族史研究』所収〕、「社会事業と肢体不自由児 近代ドイツにおける『クリュッペル』保護事業」〔山下麻衣編著『歴史のなかの障害者』所収〕、「『瓦礫の子どもたち』・『故郷を失った若者たち』

占領下ドイツにおける児童保護」〔橋本伸也・沢山美果子編著『保護と遺棄のこども史』所収〕の3点において、家族保護、障害者福祉、児童保護それぞれの領域における民間福祉のかかわりを明らかにした。

上記の研究によって明らかになったことは、以下のとおりである。民間福祉は、児童福祉、障害者福祉事業において先駆的役割を果たしており、これらの事業が公的福祉サービスとして制度化された後においても、実務の担い手、あるいは行政の協力者として欠くことのできない存在であった。とりわけ、対人援助、ケア領域における民間福祉のプレゼンスは大きく、1920年代に制度化された家族保護においても、自治体ソーシャルワーカーの協力者として民間福祉団体に所属するボランティアが大きな役割を果たした。

(3) 福祉人材養成における民間福祉の役割

「ケアの職業のルーツを探る 修道女とディアコニッセ」〔高田・中野編著『福祉(近代ヨーロッパの探究15)』所収〕、「西欧福祉国家と宗教 歴史研究における新たな分析視角をめぐって」〔『ゲシヒテ』所収〕にて、キリスト教系組織がケアの人材育成において先駆的役割を果たしており、そのマンパワーによって福祉国家を底辺で支えていた

ことを示した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

中野智世・前田更子・尾崎修治・渡邊千秋、ヨーロッパ近代のなかのカトリシズム 宗教を通して見るもうひとつの「近代」、西洋史学、査読有、252号、2014(発行確定)。

中野智世、近現代ドイツにおける福祉事業、歴史と地理 世界史の研究、査読無、671号、2014、41-44。

中野智世、西欧福祉国家と宗教 歴史研究における新たな分析視角をめぐって、ゲシヒテ、査読無、5号、2012、53-66。

中野智世、ドイツ キーワードとしての市民社会(フィランソロピーの研究動向の整理と文献紹介[1])、大原社会問題研究所雑誌、査読無、626、2010、28-34。

中野智世、福祉の現場における家族 1920~1930年代ドイツにおける家族保護ワーカーの活動から、比較家族史研究、査読有、25号、2010、32-56。

[学会発表](計8件)

中野智世、ヨーロッパ近代のなかのカトリシズム 宗教を通して見るもう一つの「近代」、趣旨説明、日本西洋史学会第63回大会小シンポジウム 2013年5月12日、京都大学吉田キャンパス

中野智世、ヌスバウム『正義のフロンティア』をめぐって 障害者への正義を中心に、障害の歴史研究会(共同研究「障害者の労働に関する比較史的研究」個別報告) 2012年8月10日、阪南大学

中野智世、ドイツ社会国家論の再検討、比較教育社会史研究会(「福祉国家と教育」部会パネル報告) 2011年11月6日、お茶の水女子大学

中野智世、西ドイツ社会国家における民間福祉団体 1950年代のカリタス連盟を例として、ドイツ現代史学会(小シンポジウム「東西ドイツ社会の社会国家性 中間団体の視点から」パネル報告) 2011年9月17日、東京大学駒場キャンパス

Tomoyo NAKANO, Freie Wohlfahrtspflege

im Sozialstaat. Am Beispiel der Caritas in der BRD in den 1950er Jahren, Workshop, Japanische Perspektiven auf den deutschen Sozialstaat im langen 20. Jahrhundert, 2011年9月8日、ミュンヘン大学、マックス・プランク研究所(Max-Planck-Institut für Sozialrecht und Sozialpolitik, München)

中野智世、ドイツにおけるキリスト教系福祉と社会国家(パネルディスカッション「『福祉の複合体』の国際比較史」報告)、社会経済史学会第79回全国大会、2010年6月20日、関西学院大学

中野智世、福祉の現場における家族 20世紀初頭ドイツの家族保護ワーカーの活動から、比較家族史学会第52回大会(公開シンポジウム「互助・支援と家族」パネル報告) 2010年6月30日、佛教大学

中野智世、慈善と医学のあいだで 20世紀初頭ドイツにおける「クリュッペル(肢体不自由児)」救護事業とその論理、日本西洋史学会第60回大会、2009年5月30日、別府大学

[図書](計5件)

中野智世ほか(共著)、山川出版社、歴史のなかの社会国家(辻英史・川越修編著、執筆担当箇所:第5章、「社会国家のパートナー 戦後西ドイツにおける民間福祉」)、2014(発行確定)。

中野智世ほか(共著)、昭和堂、保護と遺棄のこども史(橋本伸也、沢山美果子編著、執筆担当箇所:第8章、「『瓦礫のこどもたち』・『故郷を失った若者たち』 占領下ドイツにおける児童保護」)、2014(発行確定)。

中野智世ほか(共著)、法政大学出版社、歴史のなかの障害者(山下麻衣編著、執筆担当箇所:第5章、「社会事業と肢体不自由児 近代ドイツにおける『クリュッペル』保護事業」、217-263、巻末文献解題、13-17、総頁数342、2014。

中野智世ほか(共編著)、ミネルヴァ書房、福祉(近代ヨーロッパの探究)、(高田実・中野智世編著、執筆担当箇所:第5章「福祉国家を支える民間ボランティアリズム 20世紀初頭ドイツを例として」、197-236、コラム「修道女とディアコニッセ ケアの職業のルーツをたどる」、237-238、「あとがき」、371-373、巻末文献解題「福祉国家と民

間福祉』、19-21、総頁数 373+25、2012.

中野智世ほか(共著)、明石書店、生活と福祉(ジェンダー史叢書第8巻)、(赤阪俊一、柳谷慶子編著、執筆担当個所:第3部第2章、「近代ドイツにおける女性福祉職 ある女性福祉職員の日記から」、265-288、総頁数 318、2010.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中野 智世 (NAKANO, Tomoyo)
京都産業大学・経営学部・准教授
研究者番号: 90454470